

Newsletter for JADR

I. 歯学研究の行方と JADR・IADR

JADR 会長 山崎和久

(新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野)

日頃より国際歯科研究学会日本部会（JADR）の活動にご支援をいただき、会員の皆様には厚く御礼申し上げます。このニュースレターが先生方のお手元に届くころは科学研究費補助金（科研）の申請書と格闘されている先生方も多いことと拝察いたします。科研の制度も来年度から本格的に大きく改革されることになりました。審査領域がこれまでと変わり、大型の研究費はより大きな領域で審査され、特に基盤研究 S と萌芽研究（開拓）は医学研究領域全般で審査を受けることとなりました。制度変更が行われた理由については次のような点が挙げられています。すなわち細目ごとに採択件数の大枠が決まっており、領域ごとに既得権益化していること、応募者が研究内容に応じた審査区分を幅広く選ぶことができなかったこと、等です。もっともな点もありますが、多くの研究者が改革の行方に不安を抱いているのも事実です。

これまでは狭い領域でも頑張って研究を行い、成果を挙げることが次の研究費の獲得に繋がったのですが、これからは歯学の中でも他分野の審査員、さらには医学系の審査員にもアピールできる内容と実績が求められるようになると推測されます。従って、歯科領域の研究者が基盤 S のような大型の科研を獲得できる可能性は格段に低くなるという大方の予想はその通りでしょう。幅広く審査されること自体が悪いこととは思いません。しかし狭い領域で審査が行われていた時には良い面もあったと思います。それは、学問研究分野がいかにかに細分化されてきたとは言え、どのような研究であってもある程度は審査員が理解できたいうで評価が行われていたということです。今後基盤 A や基盤 S の審査に関わる先生方は全く専門外のしかも高度な内容を理解して公平に審査をすると

いう大きな責任を負わなければなりません。そのご苦労は察して余りあります。

歯学研究の勢いが衰えているのではないかという声をそこで聞きます。歯学だけでなく日本の研究力の国際的プレゼンスも低下していることが指摘されています。しかし即効性のある対策はありません。歯学研究に関していえば、臨床分野の研究者にとっては基礎研究者の知識・技術が、基礎研究者にとっては臨床研究者の視点が医科に対しても競争力のある研究テーマに繋がるのではないのでしょうか？ JADR の学術大会はまさに基礎、臨床の研究者が一堂に会して自由闊達に討論・意見交換できる場を提供しています。そして IADR の General Session は私たちの研究を国際的にアピールできる絶好の機会でもあります。11 月に上條大会長の下、昭和大学を会場に開催される第 65 回 JADR 学術大会でも特別講演・シンポジウムにおいて学際的な内容の先端的研究が発表されます。会員各位におかれましては JADR のこのような役割にももう一度目を向けていただき、積極的に参加いただきますよう、また周りの方にも周知いただきますよう改めてお願い申し上げます。

IADR、JADR とも会員数が漸減傾向にあります。国内外の学会がその数を増やし、（観光として）魅力的な開催地を競う中で IADR における発表がいろいろな意味で魅力的でなくなってきたのかもしれない。IADR 本部においても様々な課題があることは認識されているようです。今後少しずつ改革がなされ、学術大会において様々なバックグラウンドの人たちが集って熱く議論し、歯学研究が大きく発展する場になってほしいと願っております。

II. 第95回IADR学術大会 (San Francisco) 報告

1. 95th IADR General Session 参加報告

石原 雅恵

(昭和大学高齢者歯科学講座)

95th IADR General Session & Exhibition は2017年3月22日～25日の4日間にわたり、アメリカ合衆国のサンフランシスコで開催されました。私にとって初めての国際学会での発表となりました。3月のサンフランシスコは気候がおだやかで、とても過ごしやすく感じました。学会会場はモスコーンコンベンションセンターで、ダウンタウンの中心に位置する広場のユニオンスクエア内にありました。その西側のパウエル・ストリート (Powell Street) にはケーブルカーが走っており、ダウンタウンとフィッシャーマンズワーフを結ぶ2路線 (Mason 線と Hyde 線) が運行しています。

私は、まず22日のウェルカムレセプションと、23日のGC主催のジャパンナイトに出席しました。どちらも多くの先生方で賑わっており、様々な国の先生方が交流されていました。24日は、Prosthodontics Research の Removable Dentures: Experience and Quality of Life の分野でポスター発表させて頂きました。ポスター会場はとても広く、企業展示を挟むようにしてポスターが沢山展示されていました。基礎から臨床に渡る広範囲な発表が行われており、どのポスターの前でも、活発なディスカッションがなされていました。私のポスターにも、様々な先生が足を止めて下さり、国内外の先生方と交流することができました。また日本ではなかなか伺えない貴重なご意見やご指摘を頂き、今後の研究課題や方向性を再度確認させて頂くとともに、有意義な時間を過ごすことができました。海外の先生方からの質問は、主に使用した器具の性能についてや、研究内容を簡潔に伝えてほしいという内容が多かったです。

今回、私は初めてIADRに参加させて頂きましたが、普段日本で参加している学会は専門分野についての発表のため、他分野のポスターもたくさん並ぶ今回の学会は、とても新鮮で勉強になりました。また、国際学会での発表も初めてでしたので、学会が始まる前は、不安と緊張でいっぱいでした。しかし、実際参加すると皆とても優しく積極的に話しかけてくださり、緊張も次第にとれて、私からも英語で話すことができました。IADRに参加・発表したことで、多くの研究者達と意見を交わす機会が得ることができ、大きな刺激を受けました。英語の勉強をしてさらに会話ができるようになり、また他の海外学会にも参加したいと思いました。今後これらの経験を自分自身の研究に活かし努力していきます。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった佐藤裕二教授をはじめとする昭和大学高齢者歯科学講座の先

生方、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

2. 第95回IADR学術大会 (San Francisco) 報告

三浦 貴子

(東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学分野)

第95回IADR学術大会が3月20日から25日、アメリカ西海岸の大都市、サンフランシスコで開催された。アメリカで開催されるIADRへの参加は、シアトル、ボストンに続き3度目だ。学会会場である市内最大のコンベンションセンター・モスコニセンターは、サンフランシスコの繁華街、ユニオンスクエアから徒歩で5分程度の好立地だった。サンフランシスコは観光エリアがコンパクトにまとまっている上、ケーブルカーやバスなどの公共交通機関が発達しており、旅行者には便利な街だ。郊外へ少し足を延ばせば、世界遺産のヨセミテ国立公園や、ナパを始めとする世界屈指のワイナリー、IT産業の一大拠点シリコンバレーなど、近隣の見所も多数ある。広大な自然や穏やかな気候、最新のテクノロジー、世界の文化が融合したハイセンスで魅力的な街、これまで訪れた他の都市とは違った雰囲気と顔があり、また再訪したいと思う場所であった。

さて本題に入ろう。今回のIADRの演題数はOral Session 800演題、Poster Session 2968演題であった。Prosthodontics Researchに限るとOral Session 33演題、Poster Session 102演題の合計135演題であり、デジタルデンティストリーに関連した発表が目立った。我々が発表したDental Materials 1: Ceramic-Based Materialsには、Oral Session 23演題、Poster Session 94演題の合計117演題がエントリーされていた。このカテゴリーではジルコニアセラミック、特にモノリシックジルコニアによる対合歯の摩耗や疲労に関する発表が多かった。日本からの演題は、Prosthodontics Researchが13演題、Dental Materials 1が10演題で、両カテゴリーとも全体の約10%を占めていた。毎度のこととはいえ演題数の多さも然ることながら集まる演題の多様さに驚かされた。

当教室からは大学院生の山内しのぶが、“Effect of Frame Thickness on Fracture Toughness of Veneered Zirconia All-Ceramic Restorations”と題し口演発表を行った。ジルコニアフレームの厚さの違いが陶材の物性へ及ぼす影響について検討したものだ。当初はどれほどの反響があるか懸念していたが、専門家からの多くの質問やアドバイスをいただき、今後のステップアップに繋がる価値ある機会となった。

本大会で得た知識や情報、出会いと交流を今後の研究活動の糧として、歯科界の更なる発展に貢献できればと思うと同時に、この経験が後輩へのより良い臨床・研究指導に繋がれ

ばと感じている。

” No challenge, no new findings!” 挑戦すれば失敗もあるが、その理由を分析して次に繋げることができるよう、日々前進していきたい。そしてこのモチベーションを維持していきたいと思う。



Moscone Center にて

3. 第 95 回 IADR 学術大会参加報告

小盛 大志

(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
インプラント再生補綴学分野)

2017年3月22日から25日にかけてアメリカのカリフォルニア州サンフランシスコで開催された第95回 IADR/AADR/CADR 学術大会に参加して参りましたので、報告をさせていただきます。

羽田空港から約10時間かけて、3月21日の朝にサンフランシスコ空港に到着しました。現地の気候は日本よりも少し暖かく、日中は上着がいらないくらいで、また、学会中は概ね天候に恵まれました。

メイン会場である Moscone Convention Center – West Building は、サンフランシスコ空港から BART と呼ばれる電車で30分のダウンタウンに位置しており、周囲にはユニオンスクエア、ソーマと呼ばれるマーケット街があり、また、ケーブルカーを使用すればフィッシャーマンズ・ワーフまで行くことができる交通の便が発達した地域で、街は人通りと車通りが多く、活気があり、噂通りの、坂の多い街でした。

今回の IADR のメインテーマは Modulating the oral microbiome for oral health であり、53 題のシンポジウム、17 題の keynote lecture、1121 題の口頭発表、2946 題のポスター発表と特別講演がありました。

全体を通して、生体材料関係の研究はもちろんですが、変形性関節症やシェーグレン症候群をテーマに骨や軟骨に関連する研究、唾液腺に関する研究発表が多かったように感じら

れる学会でした。

そのような中、人生初の学会発表を、国際学会で経験しました。私のセッションは Prosthodontics Research-Antimicrobial Action/Clinical Studies で「Regulation of gingival keratinization by laminin32」という演題で口腔粘膜に関して、ポスター発表を行いました。75 分間のディスカッションタイムで、数人の先生とディスカッションを行い、英語が聞き取りにくく、冷や汗をかくシーンもありましたが、大変有意義で、そして刺激的な時間を過ごすことができました。また、他分野の先生の発表を見て、世界でどのような研究がされているのか、自分の研究はどのような位置づけにあるかを確認することができました。特に Hatton Award にノミネートされているポスターは研究内容も素晴らしく、大きな刺激となりました。

ポスター発表以外では Dr. Thesleff や Dr. Mao の stem cell と microenvironment をテーマにしたセッションは、口腔粘膜上皮をテーマに研究をする私にとって大変興味深く、どのようなメカニズムで幹細胞の運命が決定されるのかという点で最新の知識を得ることが出来ました。また、UCSF の Dr. Joseph DeRisi は、特別講演にて、様々な疾患を対象とした cDNA micro Array や次世代シーケンサー解析を駆使した網羅的解析を行っており、世界に視点を向けた規模の大きい研究やその実績の数々にスケールの大きさを感じました。

この学会参加を通じて、自分の未熟さと研究の難しさを痛感するとともに、研究の面白さとその可能性を再認識しました。今後ますます努力し、研究を続けていきたいと強く感じました。

最後に、今回このような貴重な発表の機会を与えて下さいました岡山大学インプラント再生補綴学分野 窪木拓男教授、ならびに発表に際してご指導頂きました先生方に感謝申し上げます。

簡単ではありますが、第95回 IADR/AADR/CADR 学術大会の参加報告とさせていただきます。

4. 第 95 回 IADR 総会・学術大会に参加して — Cariology Research —

安彦 友希

(東北大学大学院歯学研究科口腔生化学分野)

2017年3月22日から25日にわたり、米国のサンフランシスコで開催されました第95回 IADR General Session & Exhibition に参加しましたのでご報告させていただきます。開催地であるサンフランシスコを訪れたのは初めてでしたが、予想していたよりも肌寒く、また晴れたり雨だったり、過ごしやすとは言えない天候でしたが、すでに桜が満開で、一足早くお花見気分が味わえました。

学会会場の Moscone West Center はサンフランシスコの中心地にあり、アクセスも良く、すぐ目の前にはフードコートが

併設された複合施設があったりと、非常に良い環境のコンベンションセンターでした。

今回の IADR の Oral Presentation の演題数は 800 題、Poster Presentation は 2968 題と多くの演題が発表されていました。私は研究テーマである Cariology Research Microbiological Studies/Biofilm のセッションを中心に参加しました。本セッションは Oral Presentation 12 題、Poster Presentation 48 題、計 60 題と、全体の演題数から見ると割合は少なめですが、内容は大変充実しておりました。私が注目したのは、ボストンのフォーサイス研究所の Anne CR Tanner 先生が座長をお務めになった Cariology Research のセッションでした。そこでは、Tanner 先生自ら、メタトランスクリプトームを用いた細菌叢の解析についてご発表されていました。メタトランスクリプトームは、遺伝子の発現を迅速・網羅的に解析する手法で、膨大な数・種類の細菌が環境中でどのような代謝を行って、影響し合っているかを予測することが可能となります。

細菌叢解析を目的とした研究では、これまで、どのような細菌が存在するのか？という主にゲノム解析を手法とした細菌叢の構造（構成）をターゲットとした研究が多くみられましたが、今後は、細菌が何をしているのか？という細菌叢の機能の面に主眼が置かれるようになっていくのではないかと印象を強く受けました。

IADR に参加したことで、新たな視点や考え方に触れることができ、今後の自分の研究を進めていく上でのヒントを多く得ることができました。また、普段はお会いすることの出来ない海外の研究者の先生方と交流できる貴重な機会ともなりました（一例を挙げれば、Tanner 先生の他、同じ、フォーサイス研究所の Christine Kressirer 先生、Queen Mary University of London の William Wade 教授、Eastman Dental Institute の David Spratt 教授らを現地の日本食レストランにご案内し、一緒にディナーの卓を囲む機会にも恵まれました）。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった高橋信博教授をはじめとする本学口腔生化学分野の先生方、関係者の皆様は心より感謝申し上げます。簡単ではありますが、今回の IADR の参加報告とさせていただきます。

5. 第 95 回 IADR General Session (San Francisco) に参加して

橋口 有真

(九州大学大学院歯学府口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野)

2017 年 3 月 22 日から 25 日、アメリカ合衆国、カリフォルニア州中部の港湾都市サンフランシスコで開催されました第 95 回 IADR 学術大会に参加させて頂きました。開催地である

サンフランシスコはもとより、アメリカ合衆国を訪れたのは初めてであり、日本とは異なる気候や景色、その全てに胸が踊りました。サンフランシスコは、ロサンゼルスと共にカリフォルニア州の経済と商業の中心都市として知られていることもあり、主要な観光スポットのひとつであるユニオンスクエア広場を中心として、ブランドショップやレストラン、ホテル、ビジネスビルが立ち並ぶ大都会という印象でした。また、都市中心部から比較的近い距離に、観光地として有名なゴールデンゲートブリッジや、海沿いにはフィッシャーマンズワーフが位置しており、観光都市としても非常に評価が高い都市です。その反面、市内には 50 以上の丘があると言われており、実際に非常に急な坂が多く、移動には伝統あるケーブルカーがよく利用されていました。しかし、サンフランシスコの気温は 1 年を通して 15～20 度前後で安定しており、急な坂をいくつも越えて歩いてもそれほど暑さを感じることはなく、市内の景色を楽しみながら、中心地からフィッシャーマンズワーフまで歩いたことは良い思い出となりました。このまま日本に帰りたくないと思ってしまうほど、サンフランシスコは素敵な街でした。

今回、私は初めて IADR に参加させて頂いたのですが、その参加者の多さと会場の規模には驚きを隠せませんでした。また、私がこれまでに参加したことのある学会の多くが、専門分野に限られた内容の発表が多いため、今回の IADR のように様々な分野の研究が一同に介する学会は非常に珍しいものでした。ポスター会場では、様々な国の研究者による、基礎から臨床までの多岐に渡る研究内容のポスターが掲示されており、至るところで活発な討論がなされていました。特に、それぞれ違う国籍と思われる研究者数人が、会場に設置されている椅子を 2～3 個寄せ集め、向かい合って座り、その場でお互い真剣に、数十分ディスカッションをしている姿は、日本ではあまり見慣れない光景であり、非常に興味深いものがありました。今回、私は自分の研究発表はありませんでしたが、同じような分野の研究をしている研究者が世界中には大勢いること、そして、それぞれ異なった見方で研究を進めていることなど、今までの自分の研究を見つめ直し、視野を広げるきっかけとしては非常に良い機会となりました。会場やレセプションでは、たくさんの海外の先生方と交流する機会があり、非常に刺激的でした。一方で、より深く、より熱いディスカッションをするためには、英語でのコミュニケーション能力の向上が必須ということを改めて痛感させられました。今回のサンフランシスコでの貴重な 4 日間は、研究だけでなく、私の今後の人生において非常に有意義なものとなると思います。このような貴重な経験を後輩にも伝え、機会があれば自分自身も是非また参加させて頂きたいと思います。

6. 95th IADR 花のサンフランシスコから

片岡 正太

(九州歯科大学地域健康開発歯学分野)

この度、95th IADR/AADR/CADR general session & exhibition に参加したので報告をさせていただきます。本学会は3月22日～25日の5日間、アメリカ合衆国サンフランシスコの the Moscone West において開催された。サンフランシスコの3月は雨季にあたるが、雨に打たれる日もわずかに一日だった。また、日中はすでに温暖で、日本のものとは違う自己主張の強い色彩の花々がジェリービーンズのように街中で美しく輝いていた。街中を歩くといたるところで春の息吹を感じ、自然と Scott McKenzie の「花のサンフランシスコ」が頭の中でリフレインしていた。

自分は海外学会に一番必要なものは朝のコーヒーであると考えている。時差呆けからくる気懈さ、億劫な朝を小粋に解消してくれるのがコーヒーだ。サンフランシスコでは、カフェ業界に新たな風が吹いていた。カフェ業界のアップルとも呼ばれるそれらのカフェは、高品質に加えとても友好的な接客をモットーとしている。その代表格とも言える「Blue Bottle Coffee」に足を運んでみた。Twitter 本社を目印に 10th St. に入っていくとすぐに水色のボトルの看板が目飛び込んでくる。通りにまで漂う香りに誘われ店内に入った瞬間、面を食らった。Good morning! と爽やかな挨拶と雛菊のような明るい笑顔で、春風に吹かれたかのように眠気は一気に飛んでいった。商品を待っている間も、「素敵なお色のシャツを着てるね。どこ

かにお出かけ? Union Sq. にあなたのシャツの色にそっくりの桜が咲いているから見に行ってみると良いわよ。」と色々話しかけてくれて楽しい会話ができた。勿論、カフェラテも非常に品質が高かった。コーヒーの主張がしっかりとしており、酸味がやや強め、まるやかな泡のミルクとの相性は抜群だった。

朝の美味しいコーヒーに出逢えたこともあり、学会期間中は時差呆けに悩まされることもなく有意義に過ごすことが出来た。今回、自分が参加した Oral Health Research – Oral Pathology and Oral Health Mechanisms のセッションでは、ポスターで16演題の発表があった。演者のほとんどが北米から参加しており、先進国色が強いセッションだった。自分は今回、「縄文人における歯列崩壊の評価」というニッチな研究テーマで発表を行ったが、それでも国籍を問わず多くの方が、自分のポスターの前で足を止め、傾聴してくださった。流石は IADR と言うべきか、研究の許容の幅の広さを改めて感じる事が出来た。ただ、発表日が最終日で企業セッションも撤収していたためか、他の日に比べて会場内の人が少なかったのが心残りではあった。

ポスター発表では、普段は質問待ちの自分が、自分から話しかけいつも以上に積極的に会話を交わそうと努めていたように思える。朝のカフェ店員の開放的且つ友好的な精神性にあてられたのかもしれない。その甲斐もあり、多くの参加者とコミュニケーションをとることが適い、有益な情報交換ができた。今後も、ポスターセッション界のアップルとなれるよう、更なる英会話能力とプレゼンテーション能力に磨きをかけて精進していこうと誓いを立てた学会であった。

Ⅲ. IADR hatton Award本選を終えて

1. IADR Hatton Award 最終選考を終えて

金子 直樹

(九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座
顎顔面腫瘍制御学分野)

この度、2017年3月22日～25日にサンフランシスコで開催された第95回 IADR General Session & Exhibition に Hatton Award 最終選考に参加するために行き参りました。初めての渡米でしたので期待と不安が入り混じる中、成田空港を出発し開催地であるサンフランシスコに到着しました。サンフランシスコは想像以上に街並みが綺麗で、まるで映画のシーンに入り込んだかのような感じです。海に面していることからシーフードがとても有名で、実際フィッシャーマンズワーフという港町で食べたシーフードパスタは大変美味しかったと聞いています。私は迷わず大好きなハンバーガーを注文しそれも大変美味しかったことを覚えています。初日はサンフランシスコ大学主催のパーティーに参加し、様々な研究分野の人達と食事やコミュニケーションを楽しみました。翌日が Hatton Award の最終選考会でしたのでその日は早めにホテルに戻り、発表の最終確認をしました。

いよいよ本番の日、会場は Moscone west というサンフランシスコの中心地の会議場です。入ってまず驚いたのは学会の規模の大きさです。私はこれまで幾度か国際学会への参加経験がありましたが今回大きな学会は初めてでした。様々な国から、様々なバックグラウンドを持つ人たちが、それぞれの研究発表のために一つの場所に集まる景色は壮観です。雰囲気は圧倒されつつも自分の発表の出番を待ちました。「Naoki, Come in.」私が呼ばれて部屋の中に入ると二人の審査員が笑顔で迎えてくれました。そのあとの発表時間10分と質疑応答5分は瞬間に過ぎ去りました。あまりの緊張で質問への切り返しスムーズでないこともありましたが、概ね練習したことは出せたと思います。

発表が終わった後は、緊張から解放されたこともあり、様々な分野の発表を聞いて回りました。ディスカッションは特に活発で、ポスターを見ているだけでも気さくに話しかけられ、内容について話し合いました。

今回 Hatton Award 最終選考に参加することができて、様々なことを学ぶことができました。最終選考までの過程で、どう自分の研究を伝えるか本当に悩みましたし、多くの人からアドバイスもいただきました。そして何よりこのような機会をいただいたことで、国際学会で発表できたという経験は何事にも代え難い経験です。

国際学会での発表は反響が大きく、予想もしない指摘や、次の研究への指南が得られます。今研究を頑張っている後輩

達にもそのことを伝え、是非 Hatton Award 選考会に応募するよう伝えたいと思います。

2. 第95回 IADR (San Francisco) Hatton Award Senior Category 最終選考を終えて

小島 佑貴

(東京歯科大学 歯学研究科生理学専攻)

この度 San Francisco (USA) で行われた第95回 IADR において、Hatton Award Japanese Division の Senior 代表として最終選考を終えたことを報告します。今回私は IADR Hatton Award Senior Category に参加し、『Depolarization activates slow-activating potassium ion channels in rat odontoblasts』について発表しました。Hatton Award は3つの部門に分かれており、日本からは Senior Category に4名の先生が参加し、発表を行いました。開会式前日に催された最終選考は、広いプレゼンテーション用の部屋に発表者と2人の審査員だけで行われました。発表10分質問5分の短い時間でしたが、最後まで準備した通りにプレゼンテーションを行うことができました。質疑応答もディスカッションしながら全て答えることができ、最後には建設的なアドバイスまで頂きました。非常に有意義な15分だったと思います。

私は学部5年生時、第87回の IADR (2009年4月) で、Hatton Award にチャレンジしたことがあります。その時の JADR News Letter には、『最後まで緊張したまま終わってしまったというのが正直な感想であり悔いが残る』発表で、『緊張のあまり、質疑応答で幾つかの質問に対してしっかりと答えられなかった』と報告しています。発表を終えた当時の私は、自分の力を全く発揮できなかったことに失望し、とても後悔しながら帰国していました。あれから8年が経ちましたが、テーマも内容も全く異なる研究で再度チャレンジし、実りある発表を行えたことは素晴らしい経験になりました。

残念ながら、最終選考後の 1st, 2nd prize の受賞とはなりませんでした。ポスター会場で選考委員の先生とお会いすることができ、自分に対する評価を直接お聞きすることもできました。そして、研究の内容もプレゼンテーションも高く評価して頂き、今後も質の高い研究を継続するよう励まして頂きました。世界の歯科研究者が何を思い、どこを目指しているのかを知る貴重な機会でもあり、様々な国の研究者と交流ができたことはとても有意義でした。

最後になりますが、未熟な自分を日々指導して下さい、ここまで導いてくださった東京歯科大学生理学講座の澁川義幸准教授および田崎雅和教授、今回の発表に様々な形でサポートして下さいました東京歯科大学微生物学講座の石原和幸先生、

ならびに関係者の皆様にこの場を借りて心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

3. IADR Hatton Award 最終選考を終えて

佐藤 圭祐

(新潟大学大学院医歯学総合研究科 歯周診断・再建学分野)

この度、San Franciscoにおいて2017年3月22日～25日に開催された第95回IADR総会・学術大会において、Hatton Award最終候補者として発表させていただき貴重な機会を得ましたので、ここに報告いたします。

San Franciscoは私が高校生のころ参加した語学研修の際、人生で初めて降り立った海外の地です。当時私はWelcome partyでのスピーチも担当させていただき、未熟な文法と発音を駆使しながらも、笑顔と元気で何とか乗り切ったことを覚えています。そして今回、そんな思い出の地San Franciscoで、私にとって初めての英語での口頭発表を行うことができたことに何か運命的なものを感じておりました。

今回発表させて頂いた「A novel mechanisms linking periodontitis and rheumatoid arthritis」というタイトルの研究は、歯周病が関節リウマチに影響を与える新たなメカニズムを提唱しています。私達の研究グループは以前より、歯周炎が全身疾患に影響を与える新たなメカニズムとして腸内細菌叢の変動に着目してきました。そして、歯周病原細菌のひとつである*Porphyromonas gingivalis*をマウスの口腔へ投与することで、腸内細菌が変動し全身性の炎症が誘導されることをこれまでに報告しました (Arimatsu K et al, *Sci Rep.* 2014)。そして今回の研究では、腸内細菌の変動による腸管免疫応答への影響を解析するにあたり、関節リウマチモデルマウスを用いて歯周病原細菌の口腔投与実験をおこなったところ、*P.g*菌を口腔投与することで腸内細菌叢が変動すると共に腸管免疫応答に変化が生じ、関節リウマチの重症化が認められたことを報告しました。

今回は残念ながら受賞をすることができませんでしたが、このような機会を頂き、多くの海外の先生方から貴重なご意見やアドバイスを頂いたことで、今後の課題を学ぶことができました。また、他のDivisionの候補者の方々と研究の話はもちろん、様々な話をして交流できたことも、大変貴重で、有意義な経験となりました。今後もよきライバルとして切磋琢磨していける仲間ができたと感じております。

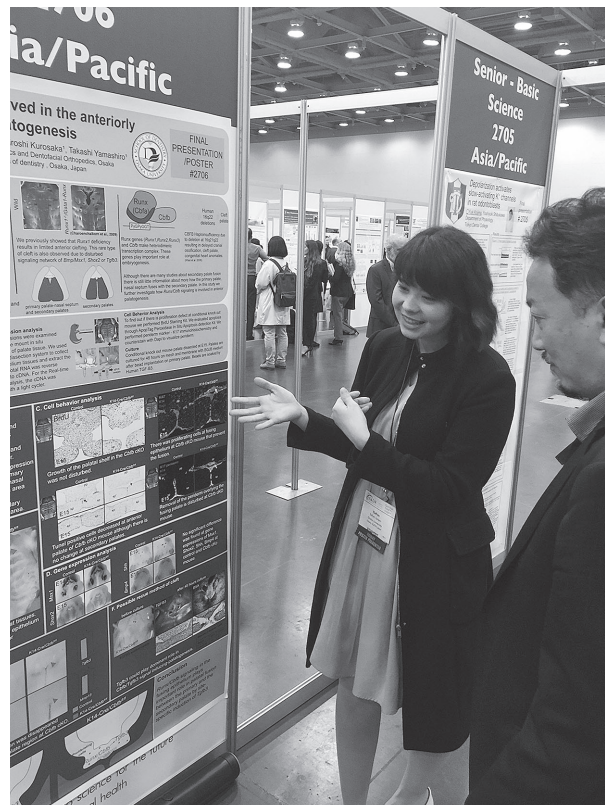
最後になりましたが、ご指導いただきました山崎和久教授、中島貴子先生、多部田康一先生、吉江弘正教授ならびにご協力頂きました共同研究者の方々に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

4. IADR Hatton Award final competition

Safiye Esra Sarper

(大阪大学大学院歯学研究所顎顔面口腔矯正学教室)

I went to San-Francisco/California as representative of Japanese Division of IADR. It was my first time to go USA. It was very exciting opportunity. However, I was not confident about my English. Before the conference I took oral presentation lessons which held at Osaka University and I watched some American television series for preparation. The competition was at first day of IADR meeting. After my work was finished at competition I had a chance to participate sessions which were very full and educational. And also I am surprised that there were so many posters. I did a reckless challenge to check title name of posters at abstract book which took me about 4 hours. During meeting I had chance to meet researchers all over the world. I felt like I met a famous person as I reference their papers at my study. At poster session I did many informative discussions at my poster and at other posters. This experience is really good for my research career and I deeply appreciate JADR for the opportunity they gave me.



ポスター発表会場にて

IV. Council Meeting Report

JADR 会長 山崎 和久

(新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野)

第 95 回 IADR General Session の際に開催された Council Meeting に今里副会長、中村会計担当理事と出席してまいりました。

開会に先立ち、アメリカ新政権による入国制限措置により Council member や多くの会員が出席できない事態になっていることが報告され、発表に関しては同一プレゼンターによる複数演題の発表を認める特例措置が講じられることが報告されました。トランプ政権は IADR にも影響を及ぼしていることを知らされました。

その後、Jukka Meurman 会長の挨拶に続き報告事項、討議事項、最後に恒例となった参加者によるフィードバックセッションが行われました。

報告事項では、まず、各 Region の代表から Regional report が報告されました。APR に関しては、昨年開催されたソウル大会について、予算段階での赤字予想を覆し大幅な黒字決算になったことが報告されました。KADR 関係者の皆さんの努力に敬意を表したいと思います。続く President report では特に若い人たちの歯科・口腔科学への興味の低下に対する危機感を強調しておりました。Executive Director Report では会員数の減少に触れ、開催地による変動が大きいことを要因の一つとして挙げていました。

議事では、予算案、Board member に 2 名の若手研究者を加えること、Science Information Committee (本会からは高田前会長がメンバーになります) の設置、Scientific Group の会計に関する税金の扱いの変更に伴う会費の扱いの変更、新しい Scientific Group として Orthodontics Research Group の新設、次期 Committee member の構成、Executive Director を Chief Executive Officer と名称変更すること、次期副会長選挙の候補者 (3 名)、2022 年の General Session 開催地 (アトランタ) などが討議され、すべて承認されました。Orthodontics Research Group の新設については反対意見も多く出され、珍しく満場一致の採決とはなりませんでした。

最後に行われたフィードバックセッションでは (1) Scientific Group の現状の可否、問題点、若手研究者の関与をどうしたら高められるか? 等について、(2) 会長職の選考が North American region や Pan European region に偏っている現状について Region 毎のローテーションの導入を含めて議論がなされました。執行部においてディスカッショングループごとに提出されたサマリーをもとに方向性が検討されることになります。

最初に述べましたように、アメリカ新政権の影響で参加者

は例年よりも少なかったように思います。サイエンスの世界も政治と無関係でいられないことを改めて思い知らされた会議となりました。

V. 第 65 回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会開催のご案内

大会長 上條 竜太郎

(昭和大学歯学部口腔生化学講座)

第 65 回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会を 2017 年 11 月 18 日、19 日に昭和大学で開催することとなりました。長い歴史と伝統のある本学術大会を本学で開催させていただけることを身に余る光栄に存じますとともに、山崎和久会長はじめ関係の皆様のご支援、ご協力に、重ねて心より感謝申し上げます。

国際歯科研究学会日本部会 (JADR) は、国際歯科研究学会 (IADR) の日本部会として歯科医学に関する研究等の特徴的な領域を広範にカバーし、本学歯学研究の国際展開における gateway としての役割を果たして参りました。また、歯学領域に加えて広範な関連領域に亘る比類のない学際的な集団として、本学会員を中心とした研究成果は、歯学の目覚ましい発展に貢献して参りました。一方で、歯学研究の更なる発展のためには、斬新で学際的な交流が必要で、それを介して問題点を認識、共有、議論することによりさらなる進歩に繋がるものと期待して、本学術大会のメインテーマを「Forefront of dental science - Toward the global standard in medical science」と致しました。

特別講演では、IADR、IADR 韓国部会 (KADR) に加えて、FDI 世界歯科連盟よりご来賓をお招きし、今後の我が国の歯学研究の将来展望を見据えたご講演をいただきます。また、基調講演では、先端的な領域として注目を集める小胞体ストレス研究で世界を牽引する森和俊教授 (京都大学) に「Dynamics of function and regulation of the endoplasmic reticulum」と題して最新の知見をご講演いただきます。また、大会中に 3 つのシンポジウム、「Cutting-edge etiology of periodontitis: Next sights for host-parasite interaction」、「Life science in space – biomedical researches performed in the international space station」、「Advances in iPS cell research and its application to dental medicine」を企画致しました。いずれも現在の歯科医学研究が直面している重要課題でございますので、議論を深めていただきたいと思っております。

また、Hatton Award セッションを設け、日本代表として IADR 大会本戦に臨む方々への激励を込めたご意見をいただければと考えております。

久しぶりの東京での本学会開催でございます。幅広い分野から多数の方々にご興味を持って参加いただき、熱い討論を展開して下さるよう期待致します。どうぞご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

詳細については、大会ホームページ (<http://jadr65.umin.jp>) をご覧下さい。

会 期：2017年11月18日(土)～11月19日(日)

会 場：昭和大学 旗の台キャンパス

〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8

TEL：03-3784-8163

大会テーマ：Forefront of dental science -Toward the global standard in medical science

大 会 長：上條竜太郎 (昭和大学歯学部口腔生化学講座)

準備委員長：宮本 洋一 (昭和大学歯学部口腔生化学講座)

内 容：特別講演、シンポジウム、ランチョンシンポジウム、ポスターセッション、展示、その他

基調講演

「Dynamics of function and regulation of the endoplasmic reticulum」

座 長：須田 立雄 (日本学士院会員、昭和大学名誉教授、埼玉医科大学客員教授)

講 師：森 和俊 (京都大学 大学院理学研究科 生物科学専攻 生物物理学教室)

特別講演 I

座 長：山崎和久 (新潟大学 大学院医歯学総合研究科 口腔生命福祉学専攻 口腔保健学分野)

講 師：Dr. Angus William G. Walls, President Elect, IADR
The Edinburgh Dental Institute, The College of Medicine and Veterinary Medicine, The University of Edinburgh, UK

特別講演 II

座 長：今里 聡 (大阪大学 大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座)

講 師：Dr. Seong-Ho Choi, President, KADR
The Department of Periodontology, College of Dentistry, Yonsei University

特別講演 III

「Oral and other non-communicable diseases in a global perspective: Challenges and opportunities for the oral health profession」

座 長：高田 隆 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門口腔顎顔面病理病態学)

講 師：Dr. Harry-Sam Selikowitz (Oslo, Norway), Chair, Science Committee, FDI World Dental Federation

★特別講演 IV 「(新たに追加されました!)

「The roles of conserved signaling pathways in tooth development

and regeneration」

座 長：上條竜太郎 (昭和大学歯学部口腔生化学講座)

講 師：Irma Thesleff 先生 (University of Helsinki, Finland)

シンポジウム I

「Cutting-edge etiology of periodontitis: Next sights for host-parasite interaction (歯周炎の革新的病因論：宿主-寄生体相互作用の新展望)」

モデレーター/座長：高柴正悟 (岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 歯周病態学分野)

シンポジストおよび演題：

1. 中山真彰 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科口腔微生物学分野)

「歯周病における歯周病原細菌が産生する病原因子の機能解析」

2. 前川知樹 (新潟大学大学院医歯学総合研究科高度口腔機能教育研究センター)

「Keystone 細菌と宿主の相互作用による歯周病病因論の解明と治療への展開」

3. 大島光宏 (奥羽大学薬学部)

「歯周炎関連線維芽細胞を標的とする歯周炎治療のパラダイムシフト」

シンポジウム II

「Life science in space – biomedical researches performed in the international space station (宇宙における生命科学 - 国際宇宙ステーションで実施された生命医学研究)」

オーガナイザー/座長：工藤 明 (昭和大学/東京工業大学)

シンポジスト：

1. 工藤 明 (昭和大学/東京工業大学)

「メダカにおける微小重力下での骨量減少」

2. 白川正輝 (宇宙航空研究開発機構 (JAXA))

「国際宇宙ステーション/日本実験棟「きぼう」における水棲生物実験と軌道上運用」

3. 松本俊夫 (徳島大学)

「宇宙飛行における骨量減少とその防止対策」

4. 二川 健 (徳島大学 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 生体栄養学分野)

「無重力による筋萎縮の分子メカニズム」

5. 財津 崇 (東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 健康推進歯学分野)

「宇宙・極地環境における口腔疾患と口腔健康管理」

シンポジウム III

「Advances in iPS cell research and its application to dental medicine (iPS 研究の最前線と歯科における展開)」

オーガナイザー/座長：馬場一美 (昭和大学歯学部歯科補綴学

講座)

シンポジスト:

- 赤松和土 (順天堂大学 大学院医学研究科 ゲノム・再生医療センター)
「疾患特異的 iPS 細胞による神経難病モデルと創薬への応用」
- 江草 宏 (東北大学 大学院歯学研究科 分子・再生歯科補綴学分野)
「iPS 細胞を用いた骨再生戦略」
- 馬場一美 (昭和大学 歯学部 歯科補綴学講座)
「睡眠時ブラキシズム研究への疾患特異型 iPS 細胞の応用」

ランチョンセミナー I (旭化成ファーマ株式会社主催)

「Strategy for prevention of osteonecrosis of the jaw (ONJ) in osteoporosis patients – Based on Japanese position paper 2016 and new recommendation for management from the international task force on ONJ (骨粗鬆症患者における顎骨壊死対策 – ポジションペーパー 2016 と新規国際顎骨壊死タスクフォース推奨を踏まえて)」

座 長: 岸本裕充 (兵庫医科大学 歯科口腔外科学講座)

講 師: 田口 明 (松本歯科大学 歯科放射線学講座)

ランチョンセミナー II (JADR 主催)

「Hatton Award: How to apply and win (Hatton Award 申請のポイントと成功のヒント)」

座 長: 高橋信博 (東北大学大学院歯学研究科口腔生物学講座口腔生化学分野)

講師および演題:

- 江草 宏 (東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学分野)
「Hatton Award 申請時の注意点」
- 今里 聡 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座)
「Hatton Award 審査の要点」

Hatton Award ファイナリスト 2017 講演

一般演題 (ポスター発表)

演題登録期間: 2017 年 6 月 28 日 (水) ~ 8 月 13 日 (水) オンライン登録

事前参加登録締切 (9 月 29 日 (金)) 終了後は、当日登録となり、引き続きオンラインにて受付しております。

区分	当日登録費 (9 月 30 日 (土) 以降)
JADR 会員	
JADR 会員 (正会員・Affiliate 会員)	¥9,000

JADR 会員 (大学院生)	¥4,000
JADR 会員 (学部学生)	¥0
JADR 臨時会員	
JADR 臨時会員 (一般)	¥10,000
JADR 臨時会員 (大学院生)	¥5,000
JADR 臨時会員 (学部学生)	¥0
会員懇親会費	
参加者一律	¥3,000

(Hatton 賞候補者並びに JADR/GC 学術奨励賞あるいは JADR/Joseph Lister 賞の選考参加者は会員懇親会費無料)

VI. 第 66 回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会開催のご案内

大会長 佐野 英彦

(北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野歯科保存学教室)

会 期: 2018 年 11 月 17 日 (土) ~ 18 日 (日)

会 場: 北海道大学 クラーク会館
〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 8 丁目

大 会 長: 佐野 英彦
(北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野歯科保存学教室)

内 容: 特別講演、シンポジウム、ポスターセッション、展示、その他

VII. 第 96 回 IADR 総会・学術大会 (London, UK) のご案内

会 期: 2018 年 7 月 25 日 (水) ~ 28 日 (土)

会 場: ExCeL London Convention Center
Royal Victoria Dock
1 Western Gateway London E16 1XL, United Kingdom

Entrance: East entrance, Prince Regent DLR

演題登録締切: 2018 年 2 月 2 日 (金)

事前参加登録締切 (発表者): 2018 年 5 月 1 日 (火)

事前参加登録締切 (一般): 2018 年 6 月 1 日 (金)

CONTENTS

I. 歯学研究の行方と JADR・IADR 山崎 和久	1	I. Direction of dental research and JADR・IADR Dr. Kazuhisa Yamazaki: JADR President	1
II. 第 95 回 IADR 学術大会 (San Francisco) 報告	2	II. Reports of the 95th IADR General Session in San Francisco, Calif., USA	2
1. Prosthodontics Research	2	1. Prosthodontics Research	2
2. Dental Material 1	2	Dr. Masae Ishihara : Showa University	2
3. Prosthodontics Research	3	2. Dental Materials 1	2
4. Cariology Research	3	Dr. Shoko Miura : Tohoku University	2
5. Report of the 95th IADR General Session in San Francisco	4	3. Prosthodontics Research	3
6. 95th IADR - From flower in San Francisco -	5	Dr. Taishi Komori : Okayama University	3
III. IADR hatton Award 本選を終えて	6	4. Cariology Research	3
1. 金子 直樹	6	Dr. Yuki Abiko : Tohoku University	3
2. 小島 佑貴	6	5. Report of the 95th IADR General Session in San Francisco	4
3. 佐藤 圭祐	7	Dr. Yuma Hashiguchi : Kyushu University	4
4. Safiye Esra Sarper	7	6. 95th IADR - From flower in San Francisco -	5
IV. IADR Council Meeting 報告	8	Dr. Seita Kataoka : Kyushu Dental University	5
V. 第 65 回 JADR 総会・学術大会開催のご案内	8	III. 2017 IADR Unilever Hatton Competition & Awards	6
VI. 第 66 回 JADR 総会・学術大会開催のご案内	10	1. Dr. Naoki Kaneko : Kyushu University	6
VII. 第 96 回 IADR 学術大会開催のご案内 (2018 年度 IADR, London, UK)	10	2. Dr. Yuki Kojima : Tokyo Dental College	6
		3. Dr. Keisuke Sato : Niigata University	7
		4. Dr. Safiye Esra Sarper : Osaka University	7
		IV. Report of the IADR 2017 Council Meeting Dr. Kazuhisa Yamazaki: JADR President	8
		V. Announcement of the 65th JADR General Session	8
		VI. Announcement of the 66th JADR General Session	10
		VII. Announcement of the 96th IADR General Session in London, UK	10

●編集後記●

今号は、San Francisco 大会の参加報告と、同大会での Hatton Award 本選に挑んだ4名の若手の感想を中心にお送りします。IADR が、若手研究者にとっても刺激的で実り多い場であったことが伝わってくる内容で、嬉しい限りです。ただ、非常に残念なことに、2017 年度の JADR 会員数（6月時点）が 1000 名をわずかに下回ったため、2018 年のロンドン大会での Hatton Award 本選に JADR から送り出せる若手研究者の人数が 3 名に減少してしまいました。巻頭言で山崎会長が語っておられますように、JADR は、基礎から臨床に至るさまざまな領域の研究者が相互に協働し、新たなエネルギーを生み出せるプラットフォームとして機能できる学会です。日本の歯学研究全体を発展させるという意味でも、皆様が所属されている専門学会と同様に、IADR/JADR メンバーシップの毎年の更新を何卒よろしくお願い致します。

発行 国際歯科研究学会日本部会 (JADR) <http://jadr.umin.jp/>
 連絡先：〒 612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302
 アカデミック・スクエア (株) 内 TEL：075-468-8772 FAX：075-468-8773
 JADR 副会長 今里 聡 (大阪大学大学院歯科研究科顎口腔機能再建学講座)
 連絡先：〒 565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-8 FAX：06-6879-2916
 2017 年 9 月 30 日 発行

IADR/JADR 会員各位

IADR/JADR メンバーシップの更新および IADR 大会参加登録のご案内

日頃より IADR/JADR の運営にご理解とご協力を賜わり誠に有難うございます。

早速ですが、2017 年 8 月下旬に IADR 本部事務局より会員各位へ、2018 年度メンバーシップ更新依頼のご案内がお送りされました。

ご存じの通り、JADR は IADR の全支部の中で有数の会員数を擁する部会（JADR）となって久しく、IADR/JADR 会員は、IADR における中心的な役割を担っていると IADR 本部にも認識されております。とくに、各専門分野の先生方には、IADR の組織する各 Research Group におきまして、格段のご活躍を頂いております。また、若手研究者のご活躍もめざましく、Hatton Award では、過去数回、JADR からの候補者が見事に First Prize に選ばれております。JADR は、このような IADR/JADR 会員の国際的な活動をサポートし、日本はもちろんのこと世界の歯学研究水準の発展に貢献していきたいと考えております。

つきましては、今後も、JADR の活動を維持・推進するため、IADR/JADR メンバーシップを継続していただきますよう、お願い申し上げます。

IADR/JADR メンバーシップの更新方法は、下記の URL よりログインしていただき、お手続きください。

【IADR/JADR メンバーシップ更新ページ】

<https://www.iadr.org/Sign-In?returnurl=%2fIADR%2fJoin-Renew%2fJoin-or-Renew>

会員を更新されますと、各種 Research Group や、本部主催の Award、ならびに年に 1 度開催されます General Session など様々な情報を得ることができます。

IADR を通じて、より多くの日本の先生方が国際的に活躍されますことをお祈りいたします。

国際歯科研究学会日本部会（JADR）

会長 山崎 和久

【国際歯科研究学会日本部会（JADR）事務局】

〒 612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302

TEL : 075-468-8772 FAX : 075-468-8773 E-mail : jadr@ac-square.co.jp